

組立説明書

Alesserschmitt Bf 109E

メッサーシュミット 1/2A

バルサ及びベニヤの抜型材を図面の番号と照合したのち組み立てて下さい。

製作まえに

よりよい仕上りと一層の機能を発揮させるために、説明や図をよく読み、よく見て、順序よくていねいに正しく組み立てて下さい。

各部品は傷つけないようにカッターや小刀で切りはなし、組み合せ部分の切り込みやミソなどは正確に切り取って無理なく組み合うように整形します。接合部には接着剤をけ、釘・虫ピン・クリップ(洗たくサナミ)・糸・ゴムバンド・細い針金で仮り止めの、接着剤が完全に硬化したら、これらはすべて取り除きます。木部の加工や整形はカンナや小刀・ヤスリなどを使いますが、木片にサンドペーパーを巻くとヤスリと同じに使うことができます。

START ASSEMBLING AFTER REFERING
THE DIE CUT BALSA AND PLYWOOD
PARTS TO THE NUMBER ON THE PLANS.

BEFORE STARTING BUILDING

For better finish and flight performance, take time in reading building instruction and refering to the plans, and assemble in good order and correctly and carefully.

Cut off each part with cutter or razor blade avoiding damage, particularly on the jointing cut out and slot.

If necessary trim the parts for easier fitting. When cementing use thread, rubber band, pins, clothe clips etc.

Until cement sets for forming and working, cutter, balsa plane and/or file are to be used. Wood tip wrapped with sand paper can also be used as a file.

◆仕上げ（塗装）

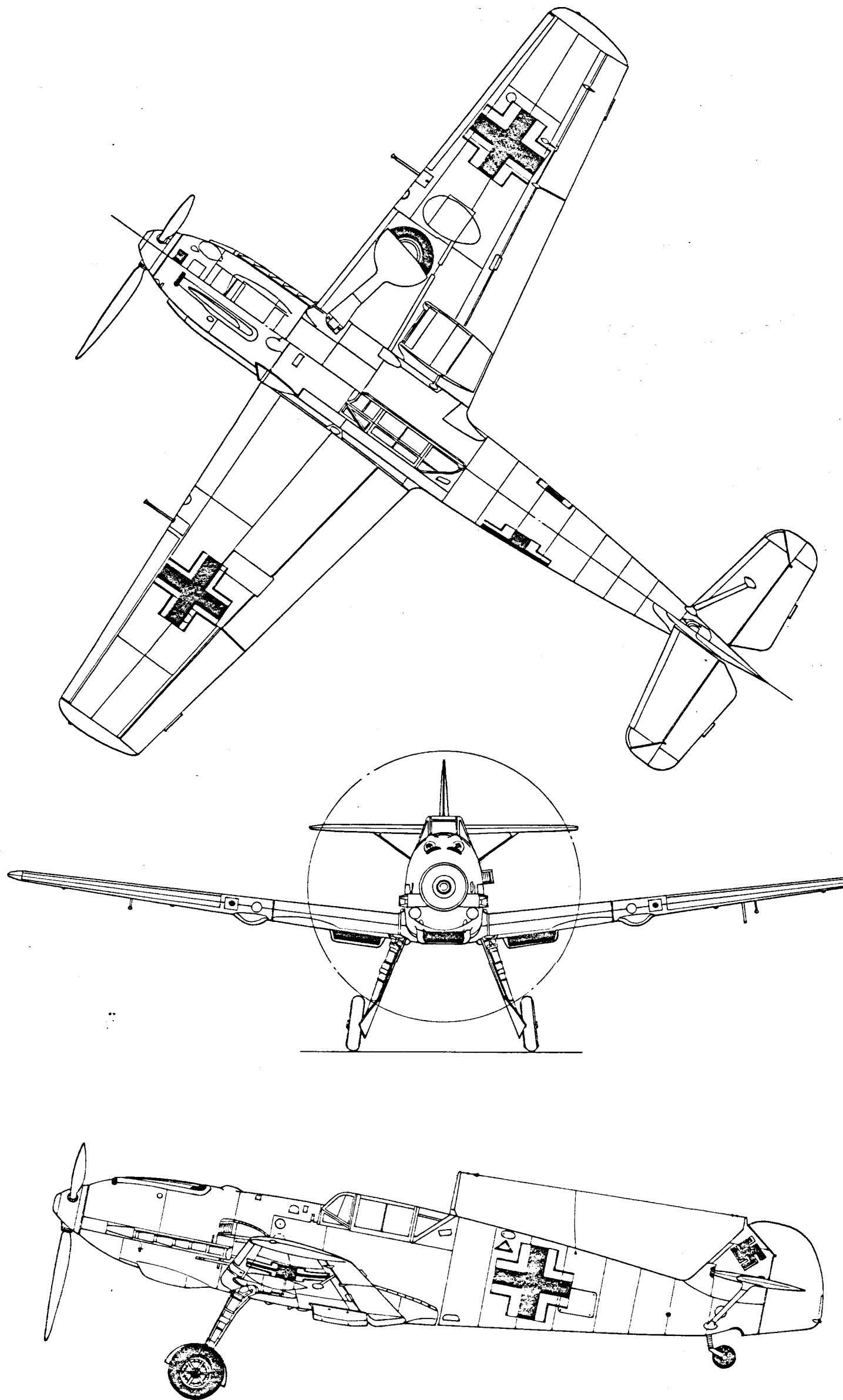
このクラの機体は塗装の良否が非常に大きく左右しますので、出来るだけ軽く、あまり塗る量に上下して貰い、塗りの量にはサークルペーパーに充分注意して下さい。仕上には色や色加減が大切です、一般的にクラック仕上げを述べた通りです。まず塗装前に地肌には、クリヤカラーを約3倍に薄めて、表面の汚しを落とすので、やがて光沢がかなり出て来ます。そしてシンナーで表面に滑り易くする為には薄く空気に乾かしては構いません。完全に乾いた後今度は5〜6倍に薄めたクリヤカラーを塗り増してゆくまで互直に150番程度のペーパーで表面の汚しを落して下さい。表面がやがて光沢下を奪う(塗ります)。乾後後300番程度の細目ペーパーで表面を取出し、グレーカボシで2〜3回下取りをします。それから自分好みの色を塗るのでありますが、プカラー等黄色と色の種類は5〜6割程度に、機体には少な過ぎた方が出来るのではないかと思います。そして最後に耐光剤を塗れば出来上がりです。出来るだけ仕上げ(仕上げた後の工程)の塗り回数にすることが大切です。又、クリヤカラーの塗り増しは、仕上げた400番前後のペーパーで表面を拭き出して、塗料が剥離してくるようになります。最初の下塗り+スピンローで仕上げたので、耐光剤の塗布も表面でもなく仕上げが完了です。一番軽(仕上げが最も)はフィルムモノで仕上げた方が、曲面が軽いか機体は少し軽くなります。機体よくていかに被覆して貰う、外観も塗装に比べて大差はなりません。

◆胴体の組立て

- ① F-9 AとBに補強材F-10を接着し、2×5%、3×3%バルサ材を所定の位置に接着する。
- ② ①で出来た物を後ろから2×5%バルサをはさみ、F-8-F-1の順に組立てる。
- ③ F-2、3、4とF-5、6、7、8の上の面に3×3%バルサを接着する。
- ④ 後部の上部1.5%バルサを接着する。
- ⑤ F-15、14でケーブルギヤー用ピアノ線をはさみ、1.5%バルサに穴を明け接着する。
- ⑥ F-17に3φナットをエボキシ系接着剤で接着し、所定の位置に、F-10を切り込み接着する。
- ⑦ F-12をノコギリで切り込みを入れ、F-10に接着する。
- ⑧ F-13を接着する。
- ⑨ 胴体上部を1.5%バルサでブラंकする。
- ⑩ コクピット部分を図面通り切り取り、1.5%バルサでブラंकする。
- ⑪ F-16を接着する。
- ⑫ F-19-22でエンジン部ハッチを接着する。
- ⑬ 全体をカタマー、ペーパー(180g)で整形する。(F-16の上部は少し広めに残しておく)
- ⑭ V-1-3を接着し、整形する。(S-1をはさんでおいてから)
- ⑮ F-18と1.5%バルサでラジエーターを作り接着する。
- ⑯ ハッチは輪ゴム等で固定する。

◆翼の組立て

- ① W-1～8のリップをW-9スパー、W-10前縁材、W-11後縁材で組立てる。(W-12の角度に注意)
- ② W-13、14を接着する。
- ③ 脚台を接着する。
- ④ エルロンヒンジ位置に、スクラップバルサを接合しておく。
- ⑤ 1.5%バルサでブランクする。(W-1から3の間だけブランクする)
- ⑥ 1.5%バルサで中央部をブランクする。
- ⑦ 薄付後縁材にエルロンホーンを入れ接着する。
- ⑧ W-21を接着する。
- ⑨ 全体をペーパーで仕上げる。
- ⑩ 中央部をテープで巻き、エポキシを塗って補強する。
- ⑪ 中央部の前・後エッジを胴体に合せて切り取り、テープにて接着剤をスリ込むようにして中央部を補強する。
前エッジの中心に3mm丸棒を接着し、機銃等取付けて出来る。



◆フライト前の注意事項

面高の構造物は出来し限り、機体の前部へセットして重量を必要とする位置へ合わせ下さい。機体の仕上り状況や、エンジン等の重量によってはテールベアになり、もたりの要する場合がありますが、重心が高めでも多少傾斜調整し、おもりは最低限度におさめて下さい。

総重量は 049-06 クラスで800gまで、それ以上の場合は109-10に該当します。又、頭は車輪の前部より7期前後うしろくにセットする必要があります。このクラスは、手放収容が生ですが、エンジン出力のある場合もは船降也容易です。

真鍮線ロープに付10°~15°に配重をセットして下さい。

1/2A メッセージシュミット Bf 109E

DATA		
全 長	FUSELAGE	750mm
全 幅	WING SPAN	900mm
主翼面積	WING AREA	14.8dm ²
重 量	WEIGHT	600~1000g
エンジン	ENGINE	051~10
ラ ジ オ	RADIO	2~3CH

エンジン09-10 ラジオ4CH 小翼サーボは2 使用可能

